

子どもが

「学校にいかない」

と言ったとき

無料
レポート



うちの子がどうして？

はじめに

【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。
下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

もくじ

第0章：自己紹介.....	4
第1章：不登校の入り口で.....	5
第2章：学校との関わり.....	7
第3章：子どもとの関わり.....	10
第4章：家族との関わり.....	15
第5章：所属を探す.....	18
第6章：蓄積されたマイナス体験.....	20
あとがき.....	22

第0章：自己紹介

こんにちは、シオン☆けい と言います。
無料レポートを読んでくださって心から感謝します。
少しだけ自己紹介をさせてください。

私には子どもが三人います。そして三人とも不登校でした。
一番上は今26歳、二番目は21歳、三番目は19歳です。

怒ったり、泣いたり、笑ったりの10年でした。

レポートの題名は1999年にPTAの講座を組んだときのタイトルです。
当時は「不登校」という呼び名が一般化しはじめたときでした。

一番上はどうか学校にいかせようと、とてもひどい事をしていたと思います。
下の二人は、無理に行かせようとはしませんでした。

今でも、学校に行かせなかったことが正しかったのか、間違っていたのか。
学校がどれだけ大事な場所なのかは私自身わかっていません。

子どもの決断を大切に扱ったということでしょうか。

ただ言えるのは、今、三人とも元気に仕事をしているということだけです。

このレポートが少しでも、あなたとあなたの子どもの助けになれば、
これほど感謝なことはありません。

第1章：不登校の入り口で

「学校に行きたくない」

子どもからこんな言葉を聞くと、
あなたの頭の中にはどんなことが浮かぶでしょうか？

「さぼり？」

「不登校？」

「いじめ？」

いきなり、ネガティブな言葉が浮かびます。

「朝から、何を言ってるの！ 忘れ物ないわね。行ってらっしゃい」

「熱は？ ないわね。大丈夫よ。行ってらっしゃい」

なんてポンと背中を押されて、行ってきます～って行けちゃう子も多いですね。

「疲れてるなら、一日休んだら」って

休ませると翌日から休まないでいける子もいます。

若いお母さんと話しをしていて、

「休んでいいよ」って言えないですか？って聞くと

たいていの方は、「ずっと行かなくなったらどうするんですか？」

「恐くていえません」って言います。

でもね、学校って辛い思いをして行くところなのかな？って思うんです。

この辛い思いっていうのは、テストの辛さとか部活の辛さとかではなく、
心を壊してまでという意味ですね。

子どもが学校に行かなくなったとき、隠れてまで行かないのはなぜだろう。
私の知っている学校と今の学校って何かが違うの？

シオン☆けいの無料レポート
子どもが「学校に行かない」と言ったとき

という素朴な疑問が湧いて出たのは確かなことです。

子どもが学校に行かない
ただそれだけのことが、
親としての自分を全否定、
子どもを全否定するのはとても辛いことです。

あえて言わせてください。

ただそれだけのことで。。。。

第2章 学校との関わり

一ヶ月に10日休むと「不登校」として、校長に報告しなきゃいけません。
三番目が小学六年の時に担任から言われた言葉です。
今はどうなんでしょうか。

嫌でも、最初は担任に話しをしなければなりません。
原因がなんであるか、
どうしても、そこに気持ちが行ってしまいます。

担任から「ご家庭の問題は？」「お母さんの接し方はどうでしょう」
なんて言われると、
カチンときて「学校には問題はないんですか！」
なんて言ってしまうたり、言えればいいですけど、
私のせい。私が母親としてしっかりしてないから。。。と
落ち込んだり、さらに頑張ってしまう方もいます。

そういう時は、鼻から息を吸って ゆっくりと吐き出して、
そしてこう言います。

「家庭にも、私にも問題はあるかもしれませんが、今はわかりません。
私も良く子どもをみますので、
先生もそれとなくクラスの状態を見てもらっていいですか？
お忙しいでしょうがよろしくお願いします。」

それとなくと言うのは、原因がわかっていないからです。
「お忙しいところ」や「お手数をおかけしますが」などを
必ず挨拶の冒頭か話の終わりにつけます。
ほとんどの教師は気持ちよく動いてくれます。

これで動かない教師はクズです。笑

シオン☆けいの無料レポート
子どもが「学校に行かない」と言ったとき

中学ぐらいになると、
非社会的行動（非行）をする生徒の対応に追われて、
後回しになることもありますから、
すぐに連絡がこなくてもイライラしないことです。
やんわりと忘れないで～のメッセージを送るといいですよ。

二番目の学年主任は
「今、学年が荒れているので、〇〇君が学校にきてもいいことはない
と思います」とはっきり言ってくれましたね。

それならいいかって腹くくって、
平日の時間を子どもと過ごす楽しさを味わうのも楽しいものです。

担任によっては、
「友だちを行かせましょうか？」
「私が朝迎えに行きます」と言う方もいますね。

そういう申し出があった場合には、本人の確認を取る必要があります。
勝手に決めてはいけませんね。
行くのはあなたではなくて子どもです。

私個人は、いい方法だとは思えません。
学校に行きたくないと休んでいるのですから、
表層的な原因が「いじめ」である場合、「担任」である場合もあります。
訪問してくる友だちが「いじめている本人」の場合もあるということです。

もう一つは、
クラスの友だちが遊びにきたり、迎えにきてくれたりすると、
母は喜んでしまい、迷惑をかけたくないと、
子どもの実際が見えなくなってしまいます。
友だちの前で動かない子を動かそうと必死になって

シオン☆けいの無料レポート
子どもが「学校に行かない」と言ったとき

怒鳴ったり、叩いたり・・・ということは、どうでしょうね。

あなたが本人だとしたら、どういう気持ちでしょう。
本人の自尊心を砕いてしまうような気がします。
そしてそういう姿を見ている同年代の子たちにもいい影響はないはずです。

二番目が中学三年の時の担任は、
「どうしたらいいでしょう」「何ができるでしょう」と聞いてきました。

不登校の生徒への無理な働きかけはやめましょう。見守りましょうというのが
文部科学省から通達された頃ですね。

私の考えは「先生は先生でちゃんとメッセージを送ってよ」ということ。

見守りましょうって言われてるからって、教師の姿がわからないのはおかしい。
「どうしてる？」だけでもいいし、「先生はね～」って
自分のことを話してくれてもいい。

結局、やめたほうがいいのか悪いかはこちらで判断して連絡しますと伝えました。

教師も人間であって、どうしていいかわからない親以上に、
見えない子への対応には苦慮すると理解していたほうがよさそうです。
教師であっても一人の人間ですから「ありがとうございます」は必ず言います。

どんな担任でも、高校を受験する場合は内申書が必要になってきますから、
嫌でも関わらなければならないことがあるということを知っててください。

教師も、一ヶ月に一度は 訪問して欲しいと思いますね。
学校に来る意志があるかどうかということより先に、
食事をしているのかとか、過度な虐待がないか。家で暴れてはいないか等など
そういう視点も持って来ていただけないだろうかと願っています。

第3章 子どもとの関わり

メルマガ（巻末に紹介しています）では繰り返しお伝えしていますが、まず、学校にいけないあなたも大好きだよってメッセージを伝えて欲しい。

自分でいいんだと思えたときに子どもは動き出します。その準備をはじめます。

これは経験から言えることですが、顔に「行きなさい」って書いてあるような状態では伝わらないですね。まず「行けばOK」「行かなきゃNOT」は横においといて、子どもの目を身をかがめて同じ高さで見ることをしてくださいとお勧めします。

実際、伝わった時点で、学校にいくって行ってしまう子も多いんですよ。純粋な「産まれてうれしかった時の気持ち」で大事なんだよって伝えて欲しいです。

講座では講師が「十分に休ませてあげてください。」っていいます。本気で子どものことを思わないと、子どもは安心して十分に休めないですね。

子どもは行く場所がないから、家にいるだけですから、他にいける場所と力があれば出て行くものだと私は考えるんですね。

家が安心と安全でゆっくり休める場所になることは大事だと思っています。

息子たちの時は、「待つ」ということが言われ始めたときでした。子どもの力を信じて待つ、その子のありのままを受け入れて待つ。

「待つ」って表現は曖昧ですね。でも基本であることは事実です。この待つって難しいんです。高等技術みたいですね。本当になにもしなくていいの？って思ってしまいますね。

シオン☆けいの無料レポート
子どもが「学校に行かない」と言ったとき

「この子は私の子、だから大丈夫」そう信じて待ちます。

いろんな力を借りて待つ時間だとも思います。

親の会や不登校の講座など、同じ立場の親御さんとの交わりも助けられます。

恥ずかしいとか、自分がどう思われるとか、
子どもに不登校のレッテルを貼ってしまうのではないとか、
そんなことは考える必要はありません。

ただ一つ 命を守る。命を繋いでいく。ということだけを
求めてくださいとお伝えします。

目的を目先の「学校に戻す」ことに置くと、子どももあなたも辛いです。
「行く」「行かない」の迷路の中から抜け出せないまま時間が過ぎていきます。

私はこの時間がとてももったいなかったなと反省してるんですね。

子どもが自立して、親の手を借りずに生活ができるようになること、
ここに まず一番の目的を置いて、

ゆったりした気持ちで
子どもに「学校にいけないあなたも大好き」「弱さを見せてくれてありがとう」
「あなたの存在そのものが嬉しい」とメッセージを送りながら「待つ」ことを
おすすめします。

ただし、その子の状態でいつまで待てばいいの。
待っていたら10年も経ってしまいました。ということにもなりかねません。

これは第5章でお話しします。

シオン☆けいの無料レポート
子どもが「学校に行かない」と言ったとき

子どもに対して、
ご主人が奥さんがご家族が行き過ぎた怒り方をしている場合、
どうぞ体ごと真ん中に入って止めてください。

「夫婦は同じ考えを持って」といいますが、「やめてよ」って
体が動きそうになることまで、不自然に止める必要はないということですね。

時には子どものために戦う母、父になることも必要です。

私は「不登校」は、子どもが自分を守るために、
子どものボキャブラリーで考えられる
最大の自己防衛行動だと思っています。

身体症状 下痢 腹痛 吐き気 等
いずれも 気のせいとか仮病とかではすまないものもあります。

今考えると、
息子のあの時の行動は、全部本当のことだったんだと自戒してます。

一番上が高校になって、起立性調節障害の低血圧で倒れました。
その時、胃カメラの検査をしたんですね。
そばでモニターを見せてもらっていて、震えました。
彼の咽喉から胃にかけては、胃酸で焼けてビラン状になり、染み出す血液で
真っ赤でした。潰瘍になる手前の段階でした。

一番上の場合は、怠惰と仮病という判断と受験時期の不登校で
こちらも焦り、彼の本当が見えなかった時でもありました。
これが、安心して休めなかった子の体だと思いとすまなさでいっぱいでした。

命があってよかったと思いました。
家庭は学校になってはいけない場所ですね。

シオン☆けいの無料レポート
子どもが「学校に行かない」と言ったとき

ストレスは与えなくても受けているのに、さらに家庭でストレスを感じさせてはいけないと思いました。

それでも心配なことはたくさんありますね。

昼夜逆転もその一つです。

良く考えればあたりまえのことなんです。
朝起きれば、学校という言葉が待ってます。考えなくていいのは眠っている間
ストレスはありませんね。布団をかぶって危険を回避してるんですね。

昼間、起きていたくない→夜遅くなる→朝、目が覚めない。いや、覚まさない。
ほっておいても一年もすれば一回りして普通に戻ります。笑

やっと、どこかに行くことになった。
親は、朝早く起きるリズムをとってやらなきゃと思いますが、
本人が決断すれば、自分の力で起きれるように、自分で調節します。

ゲームばかりしてる
私たちも、解決できないことを抱えるとなにかに没頭していただきますね。
やるだけやったら飽きてやめます。

さぼっていると勘違いしやすい子どもの行動はこれではないでしょうか。
自分がやりたいと思ったことは、どんなに朝が早くても起きれることですね。
自分で決めて自分で行動する。大人になったと喜んで認めなきゃいけないのに、
学校に行っていないというだけで、素直に喜べないのが辛いところです。笑

子どもは自分がいいことをしているとは決して思っていません。
学校に行かないことはいけないことで、
病気でなければ休んではいけないところ。
休んだら、外に出てはいけない。

シオン☆けいの無料レポート
子どもが「学校に行かない」と言ったとき

どこかで、刷り込まれているんですね。

成長過程での経験、見たり聞いたりしたマイナスの部分の蓄積、
たまったストレス、不安を取り除く必要もあります。

これは、親だけでは到底無理があると思います。

第5章からは、私が後悔していることです。

これは絶対に外してはいけなかった。

外に出たいと欲している子とじっくりと付き合いなかった。

時間を取って、仕事を調整して向き合えばよかったと感じるところです。

待ちました。

待ちましたが、今度は

動き出そうとする子への背中への押し方がわからなかった。

これは、あの当時ずっと感じていたことです。

確かに動きだすんです。でも、もう一押しができないんですね。

時期を間違えれば、さらに長くなるのではと恐くて押し出せないんです。

母親だけでは、これが難しいのではと考えます。

第4章：家族との関わり

自分一人で生んだわけでも育てているわけでもありませんから、当然 配偶者や親、兄弟、他の子どもたちがいます。

これは厄介ですね。笑

旦那なんていない 一人の方がいい。

なんてことを思ってしまうのも一度や二度ではなかったです。笑

この小さな家庭の中の 価値観の違いも必要なものの場合もあるんですよ。
子どもに気持ちや感情に気を取られて、核となる夫婦の関係がギクシャクしてしまうのは考えものです。

子どもが思春期にはいって、

母親に乱暴な口をきいたり、当り散らしたり、命令口調の物言いに

「なんてことを言うんだ。その態度はなんだ！ おまえは最低だ。」

なんて怒鳴るなら、

「俺の女になにするんだ！！自分のことは自分でやれ」の方が

いいですね。（^）

否定的なひどいことを言うご主人なら

「子どもの存在を否定しない」「子どもと学校とどっちが大事なの！」というと、

たいていは「おだまり状態」になります。笑

そのあとで、ご主人をねぎらってくださいね。

「私たちの大切な子どもでしょ。否定するのは私を否定することだし、

あなた自身を否定することじゃない？」「あの子も大事だけど、あなたも大事」

「こういうことを聞いてきたけど、協力してほしい」

夫婦関係がうまくいってないとなかなか伝えられませんね。

シオン☆けいの無料レポート
子どもが「学校に行かない」と言ったとき

いさかい中に、
子どもが逆にやられっぱなしになるようなら、体で止めましょう。
何度も言いますがこれはしないと
「あの時に守ってくれなかった。何もしてくれなかった」
脅しでもなんでもなく そう言われます。

微塵ほどの感情も、子どもは10倍、100倍にして返してきます。

離婚した私がいうのもなんですが（離婚の原因は不登校ではありません）
離婚したから余計にわかることもあります。
ご主人、奥様と仲良くしてください。

家族の核の部分が崩れていると
親は子から離れられず、子も親から離れられない。
感受性の強い子であればあるほど、この感じが強いような気がします。

面白いことに、
母親が子どもから自立するのと同じ時期に、動き出す子どもも多いですよ。
せつかくの機会ですから、子離れの準備も始めましょうね。

母親ですから、第六感という本能的な部分で、少しの変化をキャッチしますね。
子どもに「いじめ」などの大変なことが起きていると確信することがあります。

子どもは親に知られないようにわからないようにします。
さりげなく聞いても、大丈夫だよと隠そうともしますね。

いつも動かないで、
子育てはおまえの仕事だろなんて知らん振りを決め込んでいるご主人に
協力をしてもらいたい。
なのに、こちらの話しは聞いてくれない。
あげくに心配しすぎだ。で片付けられてしまうこともありますね。

だけど、命に関わることに限っては、動いてもらわないといけない。

普段の夫婦関係が悪かろうがなんだろうがです。

無関心な人を問題に目を向けさせる 有効な方法です。

いつもと違った態度で

いつもと違った声で

いつもと違った言い方で

ピンポイントで「そのこと」だけを話す。

こうしないと伝わらないです。

あなたはいつもそうやって聞いてくれないとか、無関心だとか、

私に対してもそうだとか、

余計なことは一切言わずに「そのこと」だけを話すということする。

しっかり覚えておいてください。

私はこれを子どもたちに言っておきました。

毎日、忙しくておまえ達のこと、気が付かないこともあるから、

もうだめだと感じたときは、普段と違った行動をして欲しいと。

第5章：所属を探す

小学校に行かない、中学に行かない。
義務教育でそこに所属しているから、行かない選択が出来ているわけですね。
でも、中学を卒業してしまったら、ホッとしますが行く場所がない。
私が一番 後悔しているのが所属を探せなかったことです。

学校に行かなくてもいいけど、どこかに所属して欲しいというのが
私の願いでもありました。

勉強はさておき、同年代の子たちとの交わりの中で成長して欲しい。

まだ、不登校の早い段階で一緒に動けるときに、
子どもにあった場所を一緒に探すのは大事なことだと思います。
子どもの疲れがとれて出してみようかなと思った時でもいいですね。
学校に行かせる事だけに囚われていると遅くなります。

この場合も子どもが主体であることを念頭において、
フリースクール、フリースペース等。どこでもいいんです。

とにかく、子どもが一人でも行けるようになっていく、
家にこもっていても、行きたい時にいける場所、
あるとないとでは社会復帰に大きな差があると感じています。

これが私の後悔からの おすすめです。

うちの場合は 幸いなのか、手伝いにこないかと
何度も声をかけてくれたクリーニングの工場がありましたから、
外に出てみようかなと動きだしたときに行けたわけですが、
最初は、電信柱の影から見ているだけ、夕方にならないと出られない。
気長に呼びかけてくれて、ぼちぼちと手伝いができて、、今があります。

シオン☆けいの無料レポート
子どもが「学校に行かない」と言ったとき

最初は子どもの前に立ちほだかることも必要ですが、それをいつまでも続けるというわけにはいきませんね。そして、それは自立を妨げることになってしまう。世間の価値観が助けになる場合もあります。

参考にしてください。

全国フリースクールネットワーク

<http://www.freeschoolnetwork.jp/nyuukai/kamei.htm>

全国の09フリースクール

http://www.futoko.co.jp/schoolguide/909_freeschool.html

第6章：蓄積されたマイナス経験

二番目は「いじめ」で学校にいけなくなりました。

彼は、同年代の子に会うと パニックになったように逃げ出しました。

ほとんど覚えていないようですが、
なんか嫌な感じがする やっぱりやめたと外出を止めることが多かったです。

いくら待っても、いくら愛してると伝えられたとしても
悲しいことに、私には彼のそのトラウマをとってやれません。

トラウマは、関わりの中で自然と薄れますが無くなるってものではありません。
私にもトラウマもPTSDもあるので理解できます。

子どもは親からのメッセージだけではなくて、小さいながらも生活の中で
見聞きしてきたものもメッセージとして受けています。
そのマイナス部分の不安などが、出ようとする足を止めてしまうと考えます。

母親が悪い、育て方が悪いと言われて、
あなたは自分を責めていないでしょか。
自分を責めないでくださいね。

今、これを読んでいるあなたは
一生懸命に子どものことを考えて心配しています。
あなたも子どももよく頑張ってます。

私があなたとあなたの子どもに送る言葉です。

「よく頑張ってるね」「よく頑張ってきたね」

「ちょっと休んで、お茶でも飲んでいきなよ」

誰にも、否定されることもないし、子どもも否定される必要もありません。

虐待の連鎖という言葉がありますね。

私は「虐待の社会的連鎖」があるのではないかと考える一人です。
メルマガにも「まなざし」について書きました。以下に引用しています。

参考になれば幸いです。

不登校セラピー <http://www.xn--lck7b2cxds17qgy6al8u.jp/>

不登校相談センター <http://www.futoukou119.org/futoukou2.html>

【まなざしについて】メルマガの一部です。

倉本英彦氏著（医療法人 北の丸会 北の丸クリニック所長）
「つまづく若者たちへ」日本評論社 思春期臨床の現場から

彼は良寛和尚が大好きな ころろ医者です。^

この中に著者の視点で「まなざし」について書かれている箇所がありました。
要約してご紹介します。

「世間のまなざし」はおもに次のふたつに分けられると考えています。
一つは「まなざしの脅威」

これは「公恥」、すなわち自我理想にもとづく比較機能によって、
自分を所属集団の内部における劣位者と認知して、
所属集団から孤立した自分を恥じることにあたる。

もう一つは「まなざし意識性」です。

これは「私恥」、すなわち自己理想によって、
理想的自己に比べて現実的自己が劣位者であると自分を恥じることにあたる。

難しい表現ですが、さすがに良く書かれています。

あとがき

この15年の間に、不登校が減ったわけではなく、逆に増えつづけているということに驚きと悲しさとが入り混じります。

私は「不登校」という言葉が好きではありません。
なんか病気みたいだし、回復とか統計とか言われると
なにかのサンプルのようにも感じます。

私は自然な人間の防衛本能だと思っています。
子どものボキャブラリーの中で自分を守る方法の一つが
「行かない」という行動だと思っています。

だから、「うちと同じ」と思うことが多いのですね。

だけど、子どもは一人一人違った人間です。
そして、あなたも私とは違う人間です。

そして、私たちはスーパーチャイルドを創っているわけではありません。

マニュアルの中の親子でもなければ、例えにされる親子でもありません。
一人一人違った ケースであって、ひとくくりにはできませんね。

どの場合にも共通するのは「愛していることを伝える」ということだけです。
「あなたが生きることが嬉しい」
これが伝われば 子どもは自分を守ってくれます。

どんな援助を受けるとしても、受けていたとしても、
子どもを全受容する心を中心に持っていてください。

このレポートが、あなたとあなたの子どもの役に立てたら幸いです。

シオン☆けいの無料レポート
子どもが「学校に行かない」と言ったとき

最後まで読んでいただいて心から感謝しています。
感想、ご意見などいただけると嬉しいです。
ありがとうございました。

最後に
私の心に染み込んでいる
青木悦さんの本の紹介ページです。
<http://homepage3.nifty.com/office-teppei/>

作者：シオン☆けい

メールアドレス：aimkeinet-magmag@yahoo.co.jp

メールマガジン：

飛んでけ 不登校 <http://www.mag2.com/m/0001091486.html>

ブログ：

子どもが「学校へ行かない」と言ったとき <http://aimkei.blog48.fc2.com/>